

# 付 属 表

## 付 属 表

- 付表1 各地の放射線量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 189
- 付表2 独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構における  
災害時の地域社会への協力（地方公共団体等から要請  
に応じて仮設住宅敷地等として提供する等の体制）・・・・・・・・・・・・ 190
- 付表3 宮城センターのアンケート調査結果のうち、  
「とっさに何をしたか」について、訓練生の回答一覧（自由記述）・・・・・・・・ 191

付表 1 各地の放射線量

都県名	月	日	時刻	場所	( $\mu$ Sv/h)	測定機器
岩手	7	31	11:04	花巻市内企業駐車場隣地	0.07	JB4020型
	7	31	13:07	岩手センター付近	0.14	JB4020型
宮城	6	21	16:49	くりこま高原駅前ロータリー	0.11	Radi(計測値0.107)
			16:50	くりこま高原駅前	0.11	Radi(計測値0.108)
			16:50	くりこま高原駅前排水溝付近	0.11	Radi(計測値0.109)
	8	30	9:00	仙台市青葉区役所東側玄関前	0.07	放射能情報サイト宮城
福島	8	28	12:47	福島センター前道路左	0.64	JB4020型
	8	28	12:48	福島センター駐車場付近	0.94	JB4020型
	8	30	10:50	福島駅西口	2.01	JB4020型
	6	26	8:06	いわき駅付近ビル内	0.16	JB4020型
	6	26	8:22	いわき駅前	0.19	JB4020型
	6	26	8:56	いわきセンター付近	0.33	JB4020型
	(参考)	8	8	12:00	会津若松駅前	0.14
茨城	7	17	13:11	茨城センター付近道路	0.08	JB4020型
	7	17	13:11	茨城センター前道路付近	0.14	JB4020型
(参考) 東京	6	25	15:55	上野駅	0.05	JB4020型

付表2 独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構における災害時の地域社会への協力（地方公共団体等から要請に応じて仮設住宅敷地等として提供する等の体制）

所在する都道府県	職業能力開発施設の名称	使用可能施設
青森	青森職業訓練支援センター/青森職業能力開発促進センター	多目的ホール
	東北職業能力開発大学校附属青森職業能力開発短期大学校	グラウンド、体育館
秋田	東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校	屋外実習場
福島	福島職業訓練支援センター/福島職業能力開発促進センター	多目的ホール
	いわき職業能力開発促進センター	グラウンド
栃木	栃木職業訓練支援センター/栃木職業能力開発促進センター	多目的ホール
	関東職業能力開発大学校	グラウンド、体育館
群馬	群馬職業訓練支援センター/群馬職業能力開発促進センター	体育館
千葉	君津職業能力開発促進センター	多目的ホール
	関東職業能力開発大学校附属千葉職業能力開発短期大学校	グラウンド、体育館
	関東職業能力開発大学校附属千葉職業能力開発短期大学校成田校	グラウンド、体育館
新潟	北陸職業能力開発大学校附属新潟職業能力開発短期大学校	グラウンド、体育館

付表3 宮城センターのアンケート調査結果のうち、「とっさに何をしたか」について、  
訓練生の回答一覧（自由記述）

訓練生
<p>&lt;なにもできず、なにもせず、そのまま精一杯&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が無い為、特に深刻には考えなかった。</li> </ul> <p>&lt;外に避難&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外に出なければと思い、約20名が外に出る。(全員)</li> <li>・設備(建屋内)は危険と判断し、屋外に避難しました。</li> <li>・外に出た。</li> <li>・外庭に逃げました。全員で。</li> <li>・屋外へ避難(建物倒壊も考えられた)、中庭へ避難した。</li> <li>・建物の倒壊があるため、外に出た。手持ちのラジオにて情報の収集</li> <li>・建物の外に出て広い場所に行った。揺れていた際、建物から出てこない生徒がいて違う科の生徒と呼びに行った。</li> <li>・海沿いなので高い所に避難しようと思った</li> </ul> <p>&lt;その場で身の安全確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の方の指示で屋根の上に伏せ、地震がおさまるのを待ちました。</li> <li>・天井のエアコン落下の可能性があったため、机の下にもぐった。</li> <li>・身の安全を守る。(しようと思ったのは)情報の収集</li> <li>・避難体制を取った。いつでも退避するという気持ちに切り替わった。</li> <li>・避難と思ったが、揺れが長かったので机の下に隠れた。</li> <li>・しばらくはPCモニターを押さえていたが、さらに揺れが大きくなり、机の下に潜る(揺れていたのは2~3分?)揺れがおさまった後、外へ避難。点呼。(震源は遠くだろうと私は思っていた。)</li> <li>・机の下にかくれた。その後、外に移動。少しして教室に荷物をとりに行った。</li> <li>・身辺に及ぼす落下物などが無いか周囲を確認した。</li> <li>・状況把握。危険物の確認と出口。</li> <li>・パソコンに現在作図中のデータを保存し、机の下に隠れた。</li> <li>・揺れがおさまらないので、机の下に身をかくした。</li> <li>・揺れが大きく危険だと思い、机の下に避難した。</li> <li>・机の下へもぐった。周囲のクラスメイトが外へ避難するかどうか見回しました。</li> <li>・まず机の下にすぐにかくれました。おさまった後は建物からすぐ退去しました。その後は家にいる家族が心配だったので電話をしましたが、つながらず、家に帰ろうとしたところとめられて建物に避難しました。</li> </ul>

- ・上から落下してくる物から身を守る為、机の下にかくれた。
- ・身を守ろうと机の下にかくれた。
- ・机の下にもぐった
- ・机の下にかくれました。
- ・天井に吊ってあったエアコンが落ちてきそうで、机の下にすぐ入った
- ・落下物に注意し、机の下にもぐった
- ・2Fにいたので、机の下にもぐった。(途中までイスに座って様子を伺おうとしたが、さらに強い揺れと長時間の震れの為)
- ・地震が長かった為、1度は机の下にかくれました。ですが、1分くらいゆれていたの建物の外に出て何も無い所に移動しました
- ・机の下へ身をかくした
- ・机の下にもぐる。家族へ連らく
- ・天井が落ちるかもしれないので机の下へもぐりました。
- ・おさまるまで机にしがみついていた。
- ・安全の確保
- ・身の安全を確保し、避難した

#### <安全確保して避難>

- ・揺れがおさまってから外へ避難した
- ・火気を断つ。溶接機の電源を切る。建物内から外へ避難する。
- ・とにかくあわてないで行動しなければと思った。
- ・作業を中止して安全なところへひなんしなければと思った。

#### <関係者(家族、部下等)の保護やそれらへの連絡>

- ・家族へ連絡
- ・家族に連絡したが、できず。

#### <その他>

- ・帰らなければと思ったが、先生方に帰宅してはいけないと言われ、施設内にとどまった。
- ・避難場所の確保、荷物(防寒着)
- ・津波が来るからという連絡があってから高い所に行った
- ・訓練中の上、学校側の指示が出るだろうと思いました。
- ・自宅に戻って掃除をしないといけないと思った

## 現 訓 練 生

<なにもできず、なにもせず、そのまま精一杯>

- ・とっさには、特になにもしていません。
- ・立っているのやとだった。
- ・何もできなかった。早く揺れが終わって欲しいと思うばかりでした。
- ・頭が真っ白になり、何も判断ができなかった。気持ちを落ち着かせる事に集中していた
- ・なし
- ・とつぜんすぎて頭に思い浮かびませんでした。
- ・啞然とするしかなく、何をしなければならいなんて考える余裕などなかった。
- ・ほうけていた(部屋がめちゃくちゃになったため)。思わなかった
- ・わからず立ったままの状態でした
- ・倒れそうな物を手で押さえようとしたが、立ってられずに机にしがみついて状況を見守っていた。

<その場から避難>

- ・落下物からの退避のため外へ逃げた。
- ・避難
- ・避難
- ・仕事場が工場2階だったので工場内避難場所へ向かった
- ・お店の中だったので、指示に従って避難しました。
- ・広い場所(外)に逃げた(屋内にいたので)。
- ・強い揺れで老朽化した工場の倒壊の恐れが有ると思い、外に避難した。
- ・工場内から脱出した。
- ・揺れが激しかったので、まずは屋外へ避難しようと思った。
- ・屋外に出ること
- ・建物内からの脱出
- ・逃げなければと思った
- ・老朽化した建物の中にいたので、外に出なければと思いました。・揺れて倒れてくるものや、ガラス窓に注意して外に出ました。
- ・外へ避難、身内に連絡
- ・とっさに工場の建物から外に避難しました。
- ・すぐに鋼材が崩れてきたので、とにかく逃げる事を考えた。
- ・建物の外に避難
- ・建物の中にいたので外に逃げなきゃと思い外に出ました。

- ・ドアを開けて逃げ道を作って避難しないと！
- ・外に逃げました。
- ・外に出ようと思いました。
- ・建物から出ないといけないと思い、2階から階段を降りて外へ出た。
- ・建物から出ようと思い階段を使って外へ出た。
- ・何かしなければと思ったのですが電気も切れ建物の様子もただならぬ状態（音など）だったので急いで外へ避難しました。
- ・店外に避難した
- ・家から外へ
- ・にげなければと思いました
- ・とりあえず避難
- ・電気、ガラスなどが落ちそうな場所から離れ、安全な場所に移動した。
- ・地上へ移動、避難
- ・津波が10mくるといわれたので、車で高台に避難しようと思いました。
- ・津波が来ると思い避難した。
- ・巨大な地震であり、津波の危険があった為、高台へ避難しました。

#### <その場で身の安全確保>

- ・身の安全確保
- ・身の安全確保
- ・机の下に隠れること
- ・逃げようと思い路上に出た
- ・パソコン設置の机の下にいた
- ・別に何もしないでいた。
- ・身の安全の確保
- ・あまりの揺れの大きさを機の下に避難
- ・作業台の下にかくれて→指示があり工場外へ
- ・身の安全の確保、作業台の下にかくれた
- ・机の下に隠れる
- ・家族も居た為、とりあえず身の安全の確保
- ・自分の安全の確保
- ・ガラス等を避けて物にしがみついた。ポケットラジオをONIにした



- ・安全の確保。
- ・安全の確保
- ・身の安全の確保
- ・ガスの元栓止め
- ・身を守らないと思い、家の柱につかまっていた。
- ・テレビがたおれそうだったので手でおさえた。
- ・身の安全の確保
- ・安全確保、家族等の状況確認
- ・建物、天床が落下するのではと判断し、柱の付近にいた。
- ・自分の安全の確保と、会社の人と連絡を取らなければと思いました。会社まで数分の場所だったので、出社し、同僚と行動を共にしました。
- ・自分自身の安全確保と同じ職場内の安全確保の為、大きな家具、ガラス類から離れる事の指示
- ・自分の身を守らないといけなと思い、机の下に隠れた。
- ・物が落ちてこないかと心配して、机の下に隠れた
- ・揺れがひどく、とっさに本棚と物を置いてある棚を押さえた
- ・安全の確保。情報収集が必要だと思いワンセグでニュースを見た。
- ・落下物を阻止(回避)、身を守る
- ・棚や本・PCなど全ての物が倒れ、落ちてきたので、まずは机の下にもぐりましたが、揺れがおさまって次にみんなでビルの外に出ました(ビルにたくさんヒビが入っていて危険だと思ったため)
- ・机の下にかくれた。すぐ避難できるように、高いヒールの靴を脱いだ
- ・書棚から離れなければと思った。部屋の中央に移動
- ・席のすぐ後ろにガラス窓のある本棚があったので、となりのひとにも声をかけて出来るだけ物が落ちてこない所へ移動した。友人が作ってくれたマグカップだったので、コーヒーの入ったそのマグカップを持って移動しました。
- ・ゆれがおさまるのを待った。机の下に入った
- ・身を守らなければならないと思い、机の下に隠れた。
- ・身を守らなければならないと思い、身をかがめ、上から何かおちてこないか確認した
- ・机の下にかくれた
- ・モニターを倒して、机の下に退避
- ・机の下に潜る。
- ・安全なところで、とりあえずおさまるまで待つしかない
- ・揺れている間は欄干につかまり、低い姿勢で動かない
- ・書類、PCを押さえたが揺れが続き社内が散乱してきたのでデスクの下に隠れた。その後揺れが大きくなったためドアを開けた。→ビル外へ非常階段を使って降りた。

・まず、身の安全第一と思い、机にしがみついていた。その後、揺れがあまりにも激しく、長いので、避難口の確保のため出入り口ドアを職場の方と一緒に開けて押さえていました

・机の下にもぐりました

・机の下にかくれた

・頭を守るため、机の下に入り揺れが収まるのを待ちました。

・身の安全確保→避難をしました。これ以上は記入できません。申し訳ありません

・車中で体を固定し、揺れがおさま後スマートフォンの地震情報をチェックし大きな地震だったことを周りの人に伝えて車中でラジオをつけて情報を聞いていた。

#### <避難の用意>

・廊下へ移動し、避難経路の確保

・非常階段のドアを開放した

・ガスの元栓切。家から脱出

・マンションの5階に住んでいたが、玄関のドアを開けて、閉じ込められないようにした。

・ガスを締めて、外に避難。

・事務所のドア付近におりましたので、ドアを開放しました

・室外への通路確保。TVのスイッチを入れてから、玄関のドアが開くか確認。

・避難経路の確保

・窓を開けてテーブルの下にかくれました。揺れが終わってからはお客様と共に外へ出て家族へTELLした。

・入口(フロアー入口、エントランス)の確保と身の安全(机下)

・火の元(ストーブ等)の消火。避難と情報収集。

・窓とドアを開けた。

・机の中から貴重品を取り、机の下に入った

・機械をとめる。直前に避難すべき場所になっている場所への避難

#### <関係者(家族、部下等)の保護やそれらへの連絡>

・家族の安全(特に子供)確認

・母親と一緒に来ており、離れた所にいたので、連絡を取ろうとしましたがつながらず、急いで母親の職場に行きました。

・父親がケガをしない様に車イスに乗せた。、家具がころばない様に支えをした。

・親の生存確認、会社の状態確認

・子供を逃がさなければと思いました。

・作業員の安全確保→安全な場所に待機、作業途中で止め、作業員を帰宅させた。

・できる限り、周囲の安否確認

・到着していた取引先の確認→家族の確認→会社の同僚・上司の確認

- ・家に電話を入れたが、すぐにはつながらなかった
- ・部下の安全確保、工場内の火元の確認(ブレーカーのOFFとポンペの元栓確認)、外出者の安否確認
- ・会社(本部)、家族との連絡
- ・職場、家族の安全確認
- ・実家に電話して家族の安否確認
- ・客を外に逃がして、逃げ遅れた人がいないか店内を確認。
- ・利用者さんを守ろうと上におおいかぶさりました
- ・お客様の避難誘導、停電に備え、自動ドアを開けなくてはと思った。
- ・家族、知人の安否の確認をしなければならぬと思い、電話をしました。
- ・社員の安否確認。家族の安否確認
- ・家族との連絡
- ・子供がいるので小学校に迎えに行かなければいけないと思った。
- ・とりあえず家に帰り、母親の無事を確認しようと思い徒歩で向いました。
- ・息子達の安全を確保しなくてはならないと思い、急いで帰宅しました
- ・1度祖母宅へ戻り、重要そうなものを持ちだして自宅へ連れていった。
- ・リビングに移動し、母と地震の共有、テレビが倒れないように支えた
- ・知人・家族の安否確認
- ・帰宅の指示。道路が冠水のため、帰宅途中にあった避難所に1泊

#### <その他>

- ・水の確保、家の破損状況の確認
- ・水の確保
- ・水の用意
- ・木につかまりました
- ・風呂に水を溜めないといけないと思い行動した。
- ・帰宅
- ・情報収集、自家発電機の燃料確保(会社)、職員、患者の食糧の確保
- ・ホストコンピュータの確認
- ・車を運転中だったので、車を停止させなければと思いました。
- ・トラクターの停止
- ・スタンド内の確認(油モレ等)。停電で計器類が動かなくなった。スタンド事務所の物が散乱したが、大破した物はなかった。その後、ホーム内に行き、荷物の下敷きになった人がいないか確認した。幸いリフトは下敷きになったが人は無事だった。

- ・古い戸建の建物なのでドアを開け、お客様の売約済品が汚れないようにした(高級商材、きもの、宝石)。もともと火の元はない。
- ・航空機の緊急停止と、管制塔、ランプコントロールへの連絡
- ・近くにパーキングがあったので、自動車を入れてとめようと思った。
- ・震源地の確認の為携帯チェック。家族との安否確認。
- ・まず、会社に戻った。被害の大きさと対応策を考えた。
- ・宿泊先に戻り、テレビを見て、とても大変なことになっているとわかりました。まず、家族、勤務先の知人へ安否確認のメールを送りました。
- ・頭上や周囲の危険物の確認。勤務先への連絡と家族・友人の安否確認
- ・情報確認
- ・作業中断、資料の更新
- ・友人、知人からたくさんの安否確認メールが届き、帰国後どうするか考えました。現地にいなかったなので、何が必要なのか、どうしたらいいのか友人に聞きました。
- ・モニタをおさえた。学生を確認した(春休み中)。家族(福島市・加美郡)を確認した。
- ・付近の落下物、地面の変化

---

労働政策研究報告書 No. 155

東日本大震災と職業能力開発施設 ― 被災対応から復旧・復興までの記録 ―  
(JILPT東日本大震災記録プロジェクト取りまとめNo. 2)

発行年月日 2013年 3月 21日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

---

©2013 JILPT

\* 労働政策研究報告書全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)